

グラフで見る東海経済(2018年6月)

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

【今月の景気判断】

東海経済は回復基調で推移している。生産、輸出は増加基調で推移している。雇用は改善しているが、賃金は持ち直しが一服し、個人消費は総じて横ばい圏での推移となっている。設備投資は増加している。住宅着工は横ばい圏で推移している。公共投資は横ばい圏で推移している。

先行きについては回復基調が続くと見込まれる。生産は輸送機械が持ち直し、全体として緩やかな増加が見込まれる。輸出は、世界経済が緩やかに持ち直す中、増加基調での推移が見込まれる。消費は、所得環境が横ばいとなる中、横ばい圏で推移しよう。設備投資は増加基調、公共投資は横ばい圏での推移が見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	↗	輸出	↗	☁☀	↗
個人消費	→	☁	→	輸入	→	☁	↗
住宅投資	→	☁	↘	生産	↗	☁☀	↗
設備投資	↗	☁	↗	雇用	↗	☁	→
公共投資	→	☁	→	賃金	→	☁	→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マ-クで表す。

(注)2. シャド-部分は、前月から矢印および天気マ-クを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～米国と各国間の貿易摩擦の行方
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、自動車関連の生産、工作機械受注動向、企業収益と設備投資の動向、人手不足の企業経営への影響
- ・政策～日米欧の金融政策の今後の展開
- ・家計～賃金の改善状況と物価動向の家計消費への影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

【各項目のヘッドライン】

項目	5月のコメント	6月のコメント	ページ
1. 景気全般	回復基調	回復基調	4~5
2. 生産	増加基調	増加基調	6~8
3. 雇用	改善している	改善している	8~9
4. 賃金	持ち直しが一服	持ち直しが一服	10~11
5. 個人消費	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	11~13
6. 住宅投資	弱含んでいる	横ばい圏で推移している	14
7. 設備投資	増加している	増加している	15~17
8. 公共投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	18
9. 輸出入	輸出は増加基調、輸入は横ばい	輸出は増加基調、輸入は横ばい	19~20
10. 物価	緩やかに上昇	緩やかに上昇	20
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	21
12. 倒産	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数は増加、負債総額は減少	21

(注)シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*)参考資料:「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

6. 住宅投資

8年4月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で+25.6%と3ヶ月ぶりに増加した。前年比では+10.1%(9,447戸)と3ヶ月ぶりに増加した。1

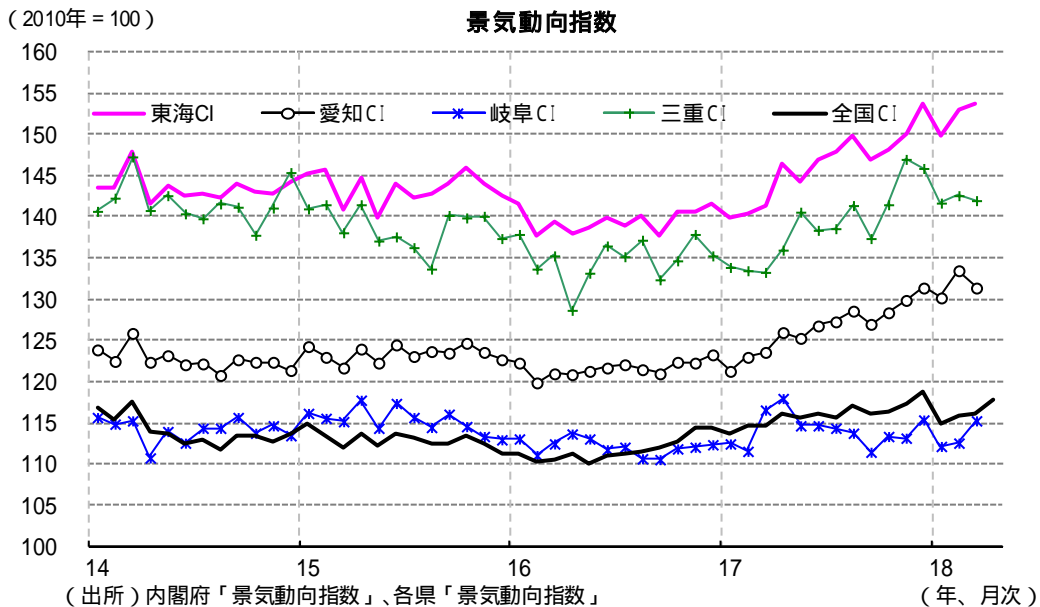
【主要経済指標の推移】

経済指標		17 1-3	17 4-6	17 7-9	17 10-12	18 1-3	17 12	18 1	18 2	18 3	18 4	18 5
景気全般	東海景気動向指数(C I、一致指数)	140.5	145.8	148.2	150.6	152.1	153.7	149.7	153.0	153.6		
	景気動向指数 愛知(C I、一致指数)	122.6	126.0	127.6	129.9	131.7	131.4	130.2	133.5	131.4		
	岐阜(C I、一致指数)	113.6	115.8	113.2	114.0	113.4	115.4	112.2	112.6	115.3		
	三重(C I、一致指数)	133.6	138.3	139.1	144.8	142.1	145.9	141.7	142.6	142.0		
	景気ウォッチャー調査(現状判断DI、季節調整値)	49.9	50.6	50.8	54.1	52.1	53.9	52.4	50.0	51.2	48.9	46.3
	(先行判断DI、季節調整値)	49.5	49.5	51.1	54.9	51.9	54.3	53.7	52.4	48.9	49.2	46.6
短観業況判断DI(製造業)	(非製造業)	6	9	16	17	17	9	<6月予想>				
	(非製造業)	11	13	13	17	15	9	<6月予想>				
法人企業統計経常利益	製造業(兆円)	0.7	1.1	0.9	1.1	0.8						
	非製造業(兆円)	0.2	0.4	0.4	0.4	0.2						
生産	鉱工業生産(季節調整済、前期比・前月比)	-1.3	4.0	3.3	3.0	-4.1	8.1	-12.4	4.1	2.2	2.7	
	鉱工業出荷(季節調整済、前期比・前月比)	-1.5	3.5	3.1	1.7	-4.2	6.8	-11.4	4.3	0.8	3.3	
	鉱工業在庫(季節調整済、前期比・前月比)	-3.2	-3.8	-1.9	3.6	-0.1	1.4	-1.7	-2.0	3.8	1.5	
	鉱工業生産 輸送機械(")	-3.8	5.1	1.8	7.2	-7.3	14.7	-19.2	6.5	0.4	7.2	
	はん用・生産用・業務用機械(")	0.4	4.9	6.2	0.6	0.9	9.5	-9.5	7.9	-2.1	-0.7	
	電子部品・デバイス工業(")	4.4	4.9	6.1	5.0	-0.8	6.5	-9.6	2.4	3.1	0.2	
	プラスチック製品工業(")	-3.1	4.2	1.1	1.8	-3.1	1.0	-6.8	0.7	6.9	-0.9	
	化学(")	-0.7	-1.9	2.6	-0.6	-4.7	2.8	-6.8	-4.4	10.4	-2.1	
	電気機械(")	-0.1	3.7	5.1	-3.5	-4.6	3.5	-8.7	0.8	5.6	2.8	
	鉄鋼(")	3.7	-0.7	-0.2	0.5	4.4	4.3	1.7	1.0	0.0	-0.7	
金属工作機械受注	総受注(億円)	343.1	421.7	418.9	460.0	480.9	491.7	442.2	483.1	517.4	492.7	
	国内受注(億円)	121.0	151.5	156.1	168.0	163.9	187.2	147.8	158.7	185.1	173.2	
	海外受注(億円)	222.1	270.2	262.8	292.1	317.0	304.5	294.4	324.3	332.3	319.5	
雇用	完全失業率(季節調整済、%)	2.4	2.4	2.4	2.2	1.9						
	就業者数(季節調整済、万人)	793	784	785	803	813						
	常用雇用指数 愛知	100.0	101.4	101.6	101.7	101.4	101.6	101.5	101.7	101.1		
	岐阜	101.7	101.9	102.0	102.1	103.7	102.4	103.0	103.8	104.2		
	三重	99.4	100.8	101.1	101.3	100.7	101.3	100.8	100.6	100.8		
	有効求人倍率 愛知(季節調整済、倍)	1.7	1.83	1.84	1.87	1.91	1.88	1.91	1.89	1.93	1.95	
	岐阜(季節調整済、倍)	1.7	1.78	1.82	1.86	1.93	1.92	1.90	1.92	1.97	1.97	
三重(季節調整済、倍)	1.5	1.60	1.63	1.66	1.71	1.65	1.68	1.70	1.75	1.73		
新規求人倍率	愛知(季節調整済、倍)	2.7	2.83	2.81	2.92	2.92	3.01	2.87	2.69	3.19	3.01	
	岐阜(季節調整済、倍)	2.4	2.49	2.60	2.75	2.78	2.87	2.60	2.80	2.93	2.71	
	三重(季節調整済、倍)	2.1	2.30	2.29	2.36	2.46	2.36	2.42	2.48	2.49	2.27	
賃金	現金給与総額	0.2	0.8	0.8	0.2	-0.6	0.6	-0.8	-0.2	-0.6		
	所定内給与	0.9	1.5	0.9	0.4	-0.6	0.3	-0.7	-0.3	-0.7		
	所定外給与	-2.3	-1.2	-1.1	1.0	1.5	0.9	1.8	0.1	2.6		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	6.7	-5.3	0.4	2.1	-0.7	2.0	-5.5	2.4	1.2	4.3	
定期収入	4.7	-3.0	-1.4	0.4	0.7	-3.3	-2.1	2.9	1.3	1.9		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	-9.1	-2.0	-2.3	0.0	2.4	4.7	5.2	4.3	-1.8	5.9	
	百貨店販売額(名古屋市内)	0.0	-0.9	-0.1	-0.7	-0.9	-1.5	0.1	-0.6	-2.1	5.7	
	百貨店+スーパー販売額	-1.5	-0.4	-0.2	0.8	0.3	-0.2	-0.2	0.0	-1.3	-0.1	
	コンビニエンスストア販売額	2.3	2.9	2.0	-0.3	0.8	0.5	0.4	0.3	1.7	1.4	
	新車登録台数(含む軽)	6.7	12.2	0.0	1.1	-1.4	4.9	0.0	-2.1	-1.6	1.6	-2.8
	家電大型専門店販売額	1.8	3.9	6.9	3.6	3.4	4.9	5.3	3.7	1.5	-1.5	
	消費者態度指数(一般世帯、原数値)	42.7	43.7	43.6	44.3	44.6	44.6	45.1	43.9	44.8	43.3	44.1
トヨタ国内生産台数(季節調整済、万台)	26.5	26.2	25.6	28.0	26.9	28.5	26.6	27.0	27.1	26.8	26.1	
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済年率換算、千戸)	107.0	108.2	108.7	110.7	102.2	106.6	110.7	101.0	95.0	119.3	
	(前年比、%)	0.2	2.0	-1.6	0.8	-4.6	0.9	7.9	-9.3	-10.9	10.1	
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	-7.5	-14.6	2.4	-1.2	15.8						
	(非製造業)	29.5	-15.8	-4.3	0.0	-10.5						
企業立地件数	-	-	-	-	-	15		11				
公共投資	公共工事請負額	20.7	3.5	-8.4	20.9	-23.0	17.0	-0.3	-44.7	-17.5	21.9	22.3
輸出入	実質輸出(季節調整済、2015年=100)	101.1	101.9	105.0	107.8	100.2	112.0	108.4	108.3	111.2	112.7	
	通関輸出(金額ベース、円建て)	3.5	7.2	12.2	11.2	7.4	9.0	13.7	4.8	5.2	8.7	11.2
	実質輸入(季節調整済、2015年=100)	96.6	95.1	96.4	99.9	100.2	104.0	99.4	107.6	93.6	97.5	
	通関輸入(金額ベース、円建て)	6.2	9.1	13.4	14.6	6.0	13.1	7.9	18.5	-6.2	9.4	17.1
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	0.2	0.4	0.6	0.9	0.9	0.9	0.9	1.1	0.9	0.7	0.7
	(食料及びエネルギーを除く総合)	-0.1	-0.1	0.0	0.0	0.3	0.1	0.2	0.5	0.4	0.2	0.2
金融	国内銀行預金残高	3.5	3.4	3.6	3.2	3.0	3.0	3.1	2.8	3.1	2.7	
	国内銀行貸出残高	3.2	3.6	3.4	2.2	1.6	1.9	1.7	1.9	1.3	1.7	
倒産	倒産件数	0.0	3.6	4.0	8.7	19.7	8.8	47.8	-5.1	22.1	9.7	19.0

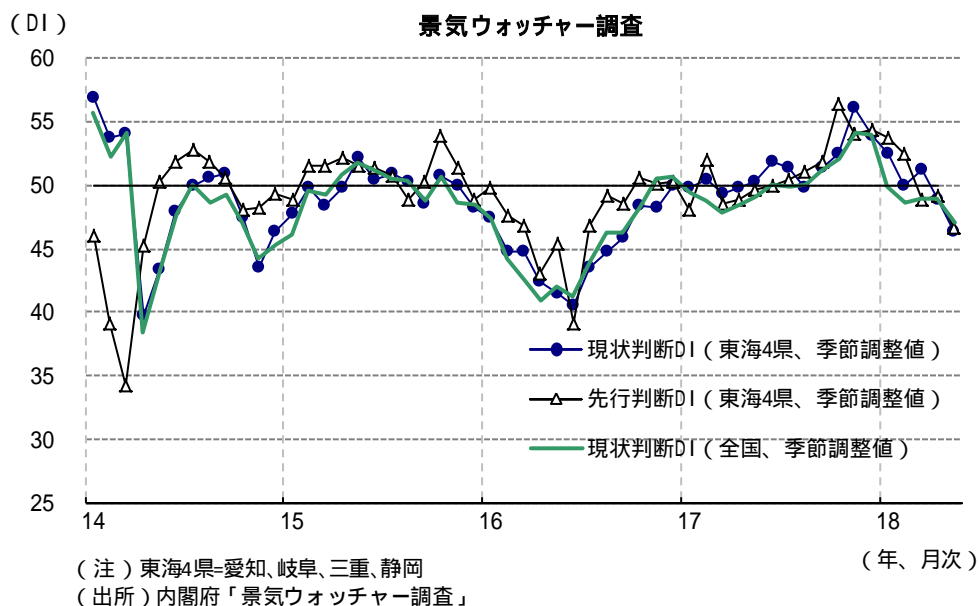
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~回復基調

3月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、採用系列の7系列のうち鉱工業生産指数、金属工作機械生産指数、有効求人倍率、人件費比率、4つがプラス寄与となり、前月差+0.6の153.6と2ヶ月連続で上昇した。各県のCI一致指数の動向を見ると愛知県(同-2.1ポイント)、三重県(同-0.6ポイント)が2ヶ月ぶりに低下し、岐阜(同+2.7ポイント)が2ヶ月連続で上昇した。

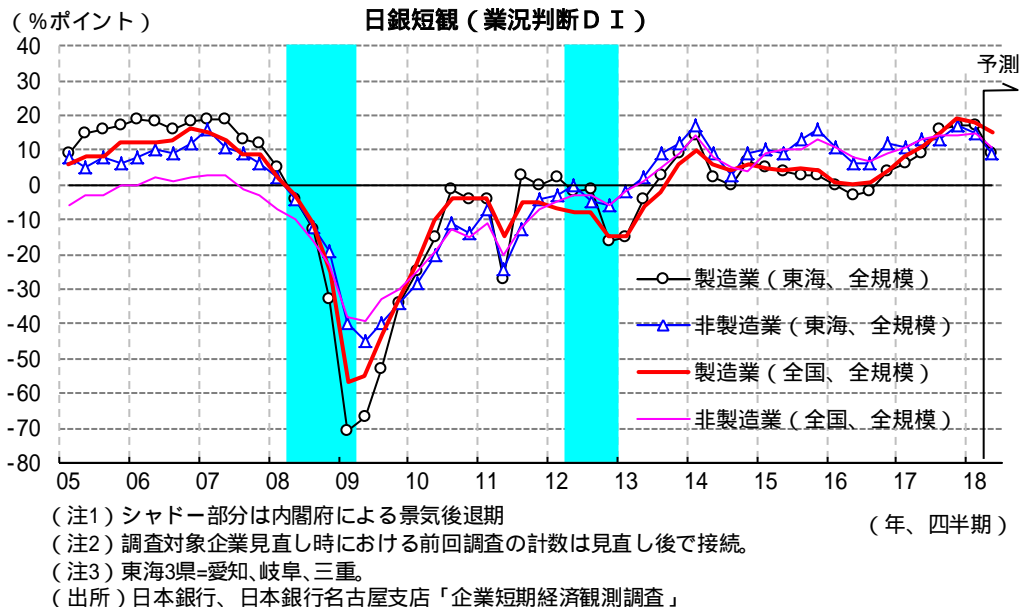


5月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DI(季節調整値)は前月差-2.6ポイントの46.3と2ヶ月連続で低下した。東海の景気マインドは弱い動きが続いている。先行き判断DI(季節調整値)は同-2.6ポイントの46.6と2ヶ月ぶりに低下した。夏の暑さなど季節要因による改善への期待があるが、消費の盛り上がりが見込みにくいことや、燃料や原材料価格の上昇、人手不足などが懸念されている。

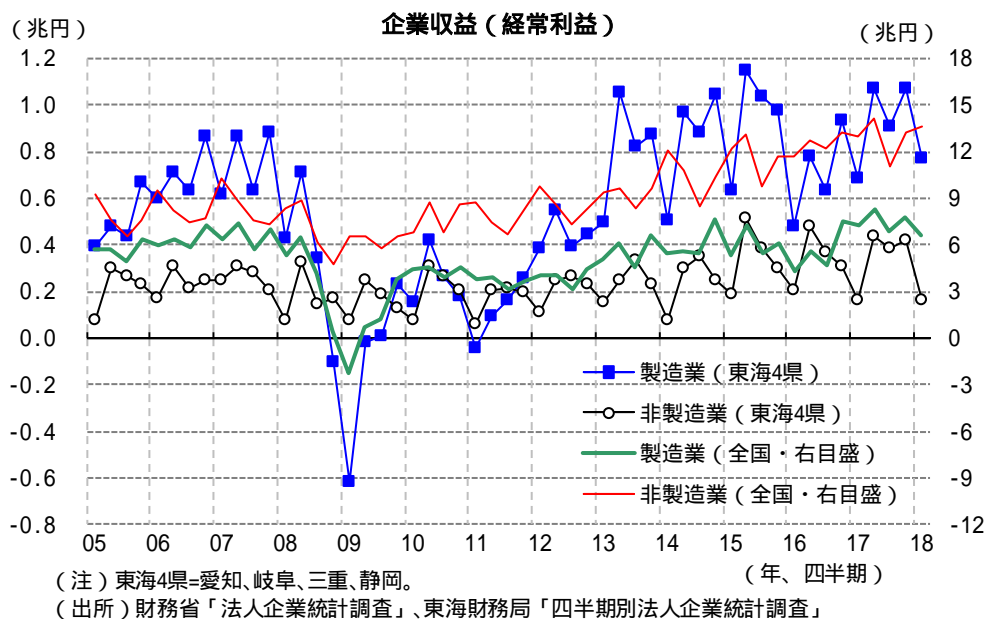


日銀短観3月調査によると、東海3県の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は、全産業[全規模]で+16と前回12月調査から1ポイント低下、製造業[全規模]では+17と横ばい、非製造業[全規模]では+15と2ポイント低下した。規模別にみると、製造業は中堅企業が改善したが大企業と中小企業が横ばい、非製造業は全ての規模で悪化した。先行きについては製造業、非製造業とも全ての規模で悪化が見込まれている。

(コメント、グラフとも前月号から変更なし)

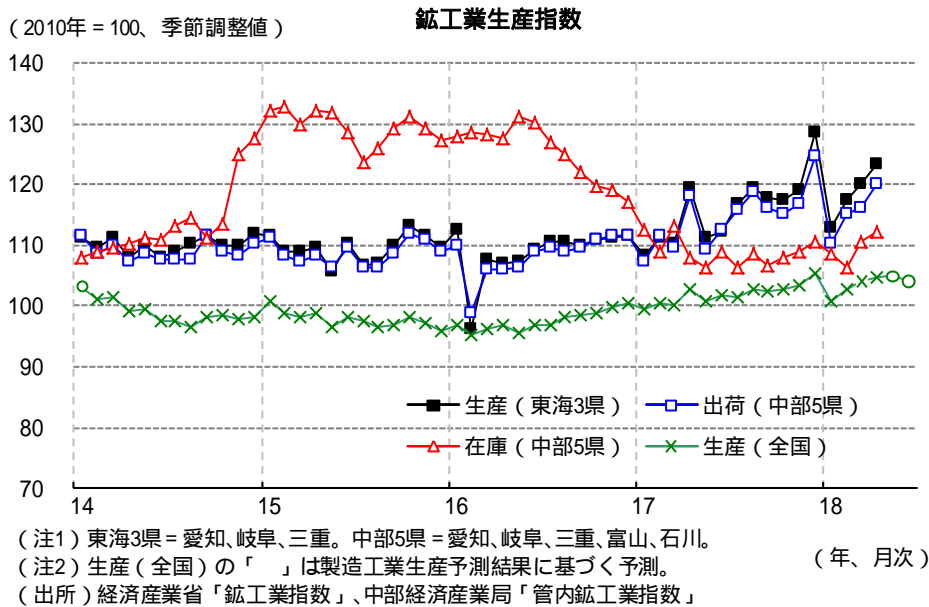


2018年1~3月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比+10.3%と5四半期連続で増加した。製造業が同+12.7%と5四半期連続、非製造業は同+0.4%と3四半期連続で増加した。日銀短観3月調査では、東海企業の17年度の経常利益は全産業で同+14.2%、製造業で同+21.0%と前回12月調査から上方修正された。18年度は全産業(同+0.0%)、製造業(同-0.2%)、非製造業(同+0.6%)と見込まれている。

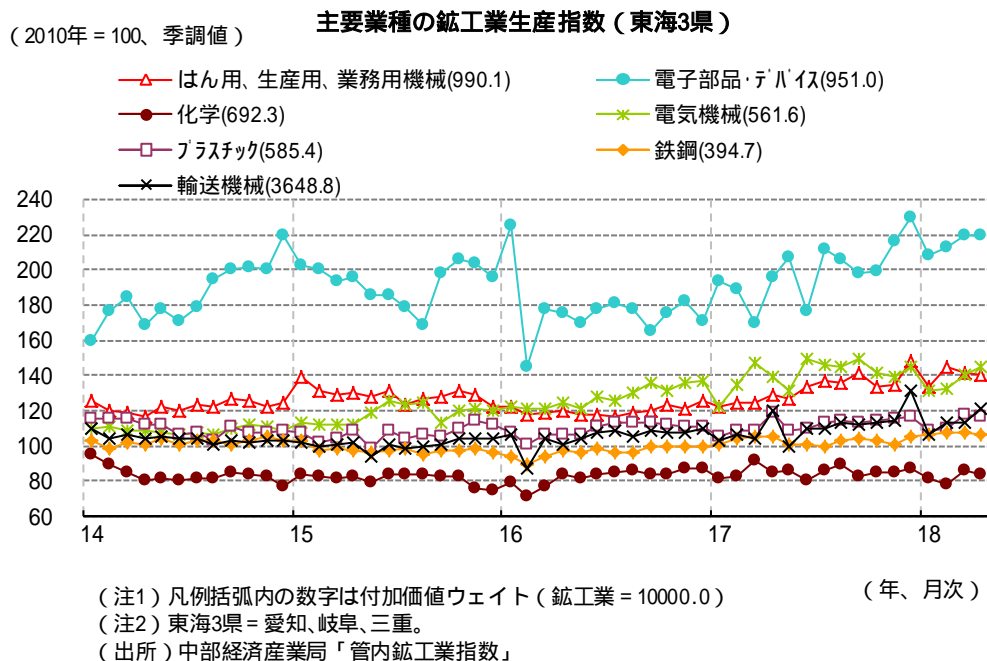


2. 生産 ~ 増加基調

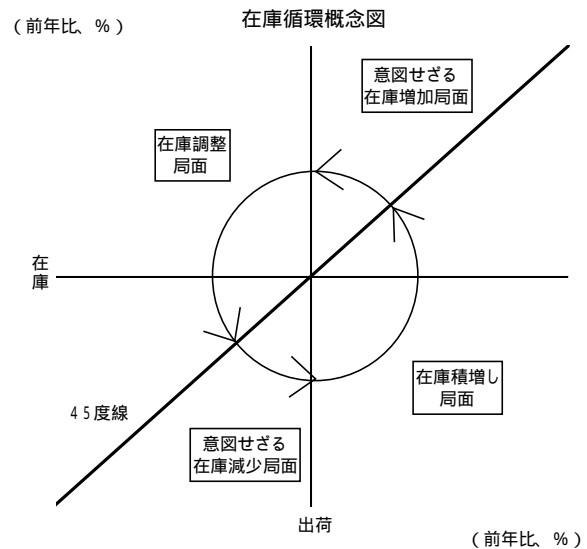
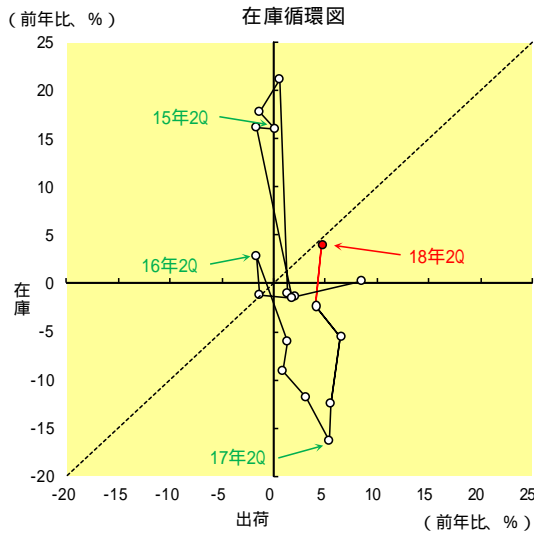
4月の東海3県の鉱工業生産は、前月比+2.7%の123.2と3ヶ月連続で増加した。食料品などが減少したが、電気機械、輸送機械などが増加した。東海の実績は均して見ると増加基調で推移している。先行きについては、輸送機械、はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイスを中心に、全体として緩やかな増加が続くと見込まれる。



業種別では、はん用・生産用・業務用機械(同-0.7%)は2ヶ月連続、プラスチック製品(同-0.9%)は3ヶ月ぶり、化学(同-2.1%)は2ヶ月ぶり、鉄鋼(同-0.7%)は5ヶ月ぶりに減少したが、輸送機械(同+7.2%)、電子部品・デバイス(同+0.2%)、電気機械(同+2.8%)は3ヶ月連続で増加した。

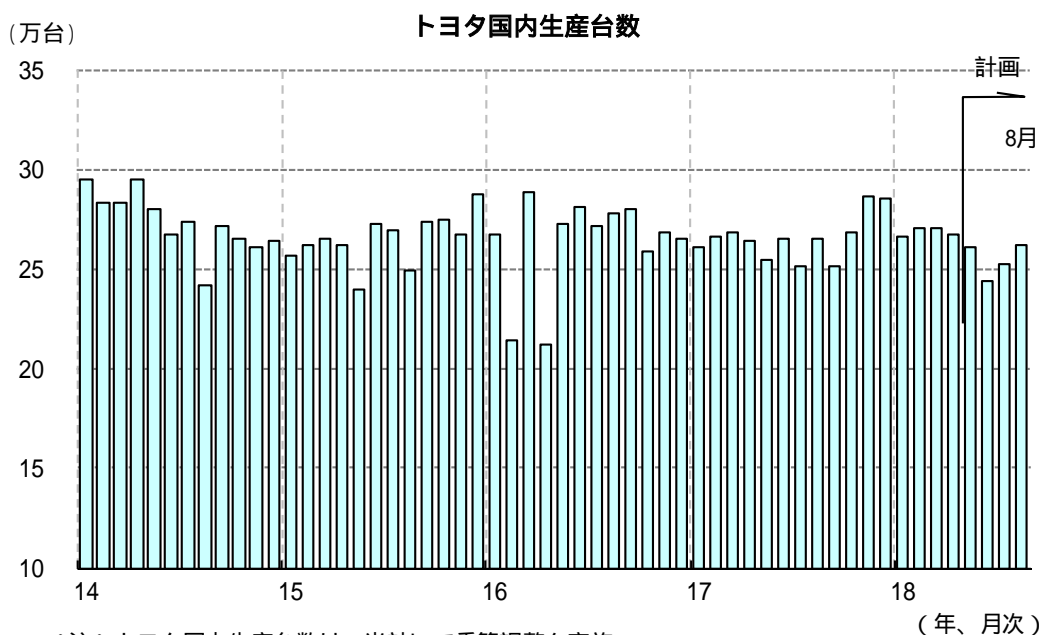


4月の中部5県の出荷は、前月比+3.3%と3ヶ月連続で増加した。輸送機械(同+7.9%)、電気機械(同+7.3%)、はん用・生産用・業務用機械(同+3.9%)などが増加した。在庫は同+1.5%と2ヶ月連続で増加した。はん用・生産用・業務用機械(同-3.0%)、電気機械(同-11.0%)などが減少したが、電子部品・デバイス(同+24.1%)、輸送機械(同+34.0%)などが増加した。



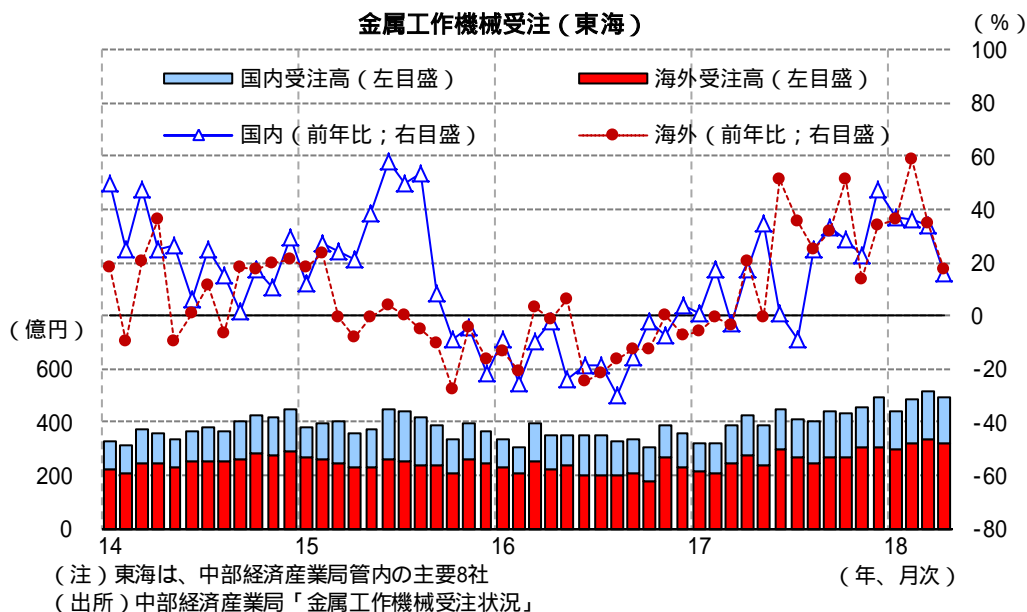
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 (注2) 中部5県=愛知、岐阜、三重、富山、石川。
 (注3) 直近18年2Qの出荷、在庫は4月の前年比
 (出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、向こう3ヶ月(18年6~8月)の国内日当たり生産台数は1万2,000台強で推移する見込みである。季節調整済みの数字で見ると、新年度入り後の生産の弱含み状態を脱し、堅調な足取りに転じる。販売好調なSUV、ミニバン系の車種や今夏投入予定の新型車が生産の増加に寄与すると見込まれる。



(注) トヨタ国内生産台数は、当社にて季節調整を実施。
 (出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞「トヨタ生産計画」

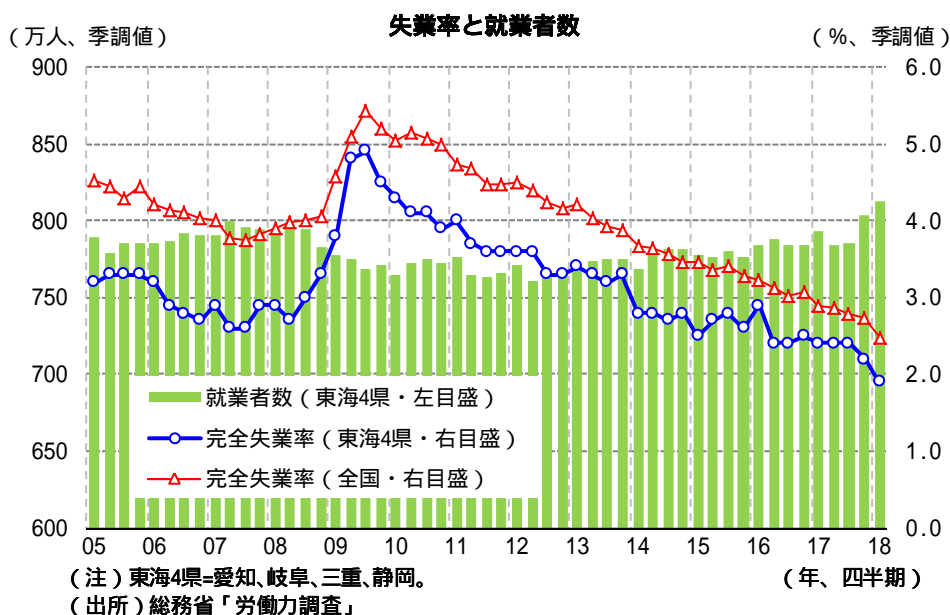
18年4月の中部の主要工作機械メ - カ - 8社の総受注額は、前年比 + 16.7%と13ヶ月連続で増加した。国内受注(同 + 15.6%)は9ヶ月連続で増加、海外受注(同 + 17.3%)は11ヶ月連続で増加した。地域別では、アジア(含む中国)向けは13ヶ月ぶりに減少したが、米国向けは15ヶ月連続、中国向けは16ヶ月連続、欧州向けは12ヶ月連続で増加した。



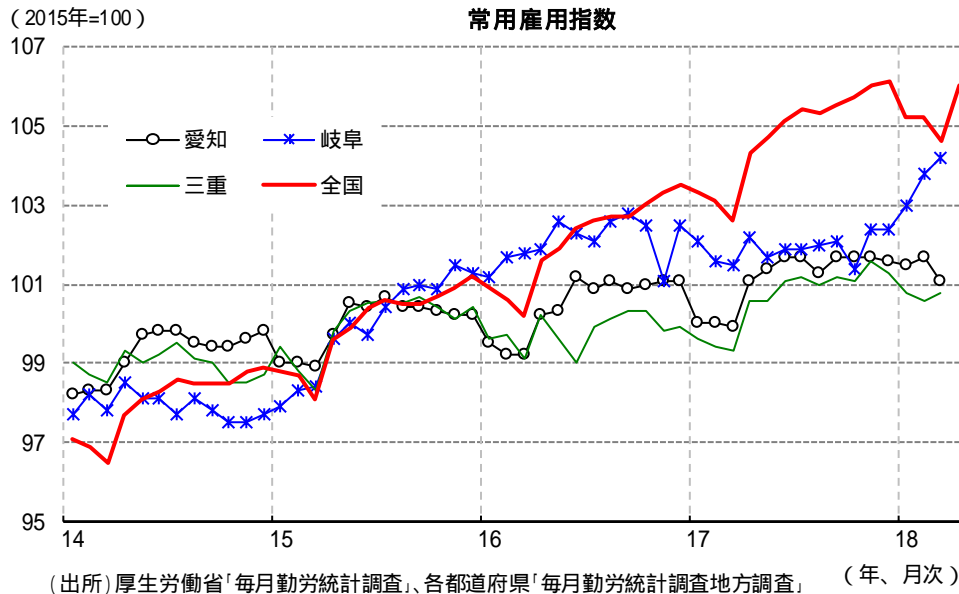
3. 雇用 ~改善している

2018年1~3月期の東海4県の完全失業率は前期差 - 0.3%ポイントの1.9%と低下し、全国(2.5%)に比べて低い水準で推移している。同時期の就業者数は前期差10万人の増加、完全失業者は前期差3万人の減少となった。

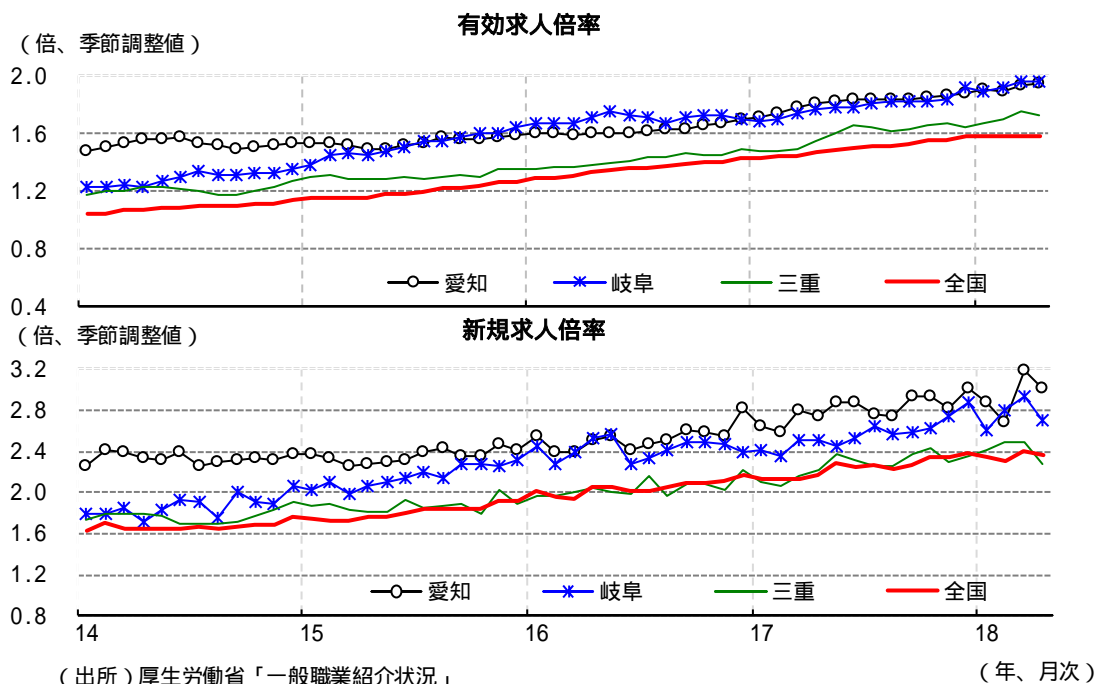
(コメント、グラフとも前月号から変更なし)



3月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県は前年比+1.7%と22ヶ月連続で上昇、三重県も同+1.5%と13ヶ月連続、岐阜県も同+2.7%と3ヶ月連続で上昇した。もっとも、東海3県の常用雇用指数は前年比の伸びで見て、岐阜を除き全国(同+1.9%)に比べ弱めの動きになっている。

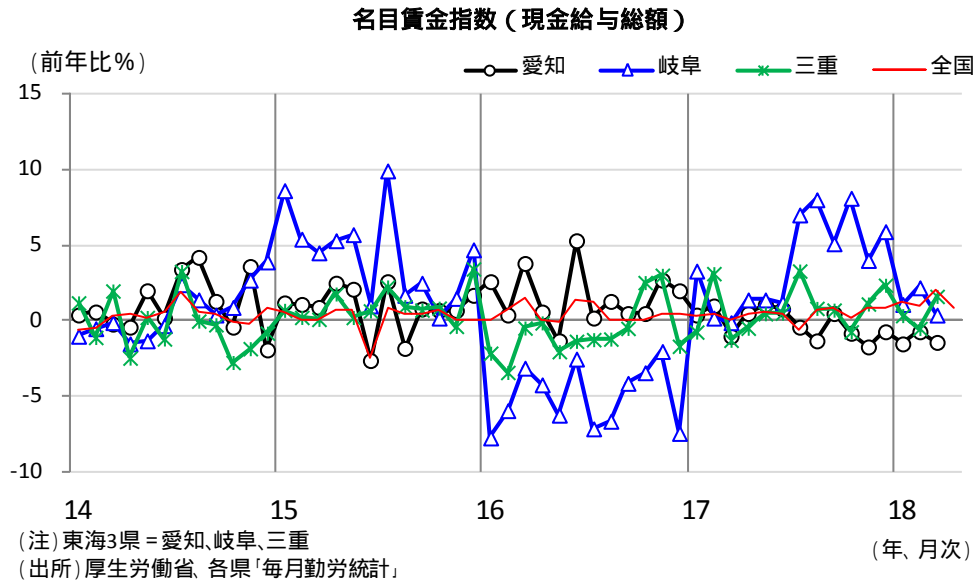


4月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、愛知県(1.95倍)は2ヶ月連続で上昇し、岐阜県(1.97倍)は前月と同水準、三重県(1.73倍)は4ヶ月ぶりに低下した。有効求人倍率に先行する新規求人倍率(同)は、愛知県(3.01倍)が2ヶ月ぶり、岐阜県(2.71倍)は3ヶ月ぶり、三重県(2.27倍)は5ヶ月ぶりに低下した。

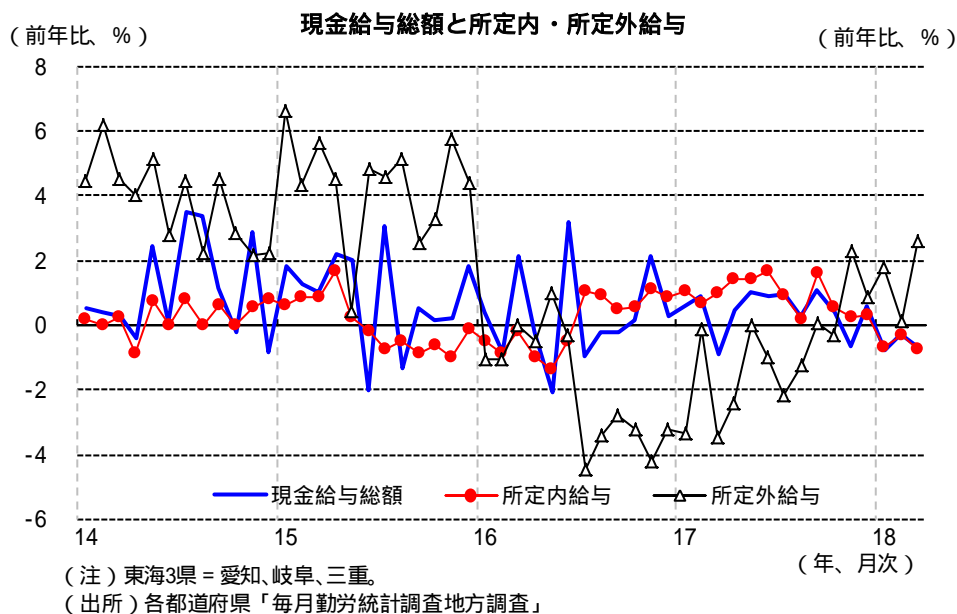


4. 賃金 ~ 持ち直しが一服

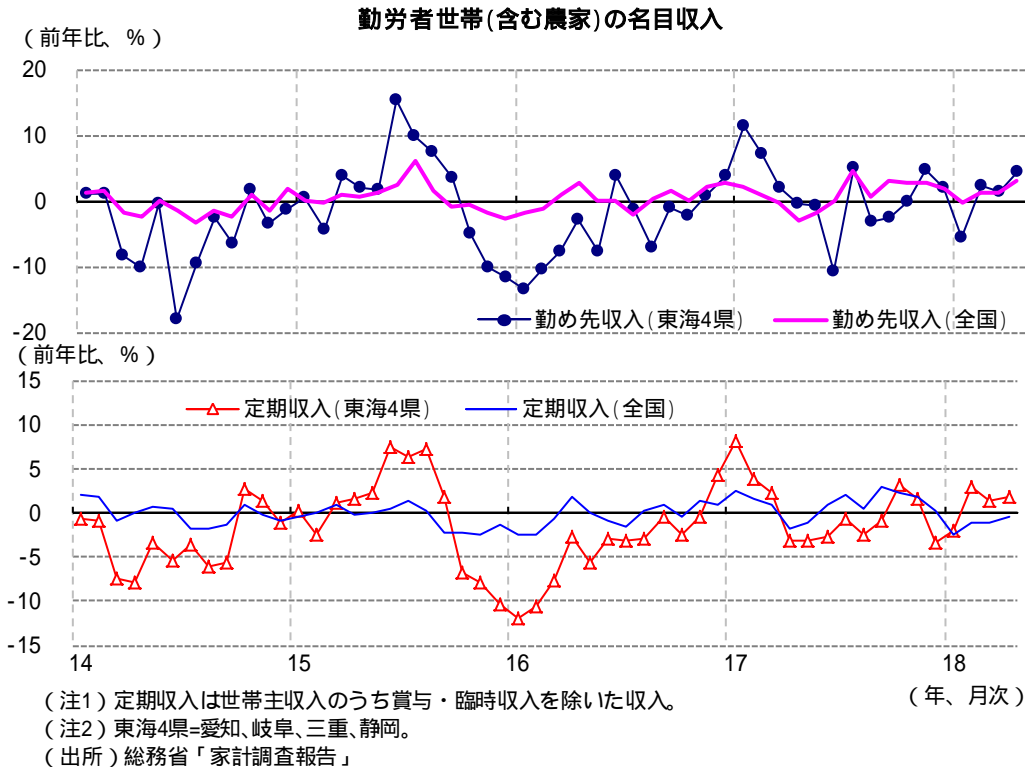
東海3県の3月の名目賃金指数(現金給与総額)をみると、岐阜県は前年比+0.4%と12ヶ月連続で、三重県は同+1.6%と2ヶ月ぶりに上昇したが、愛知県は同-1.4%と6ヶ月連続で低下した。東海3県の賃金は、労働者数の大半を占める愛知県で指数の低下が続き、持ち直しが一服している。今後については、横ばい圏での推移が見込まれる。



東海3県の3月の一人当たり現金給与総額(加重平均)は、前年比-0.6%と3ヶ月連続で減少した。内訳をみると、所定外給与が同+2.6%と5ヶ月連続で増加したが、所定内給与は同-0.7%と3ヶ月連続で減少した。

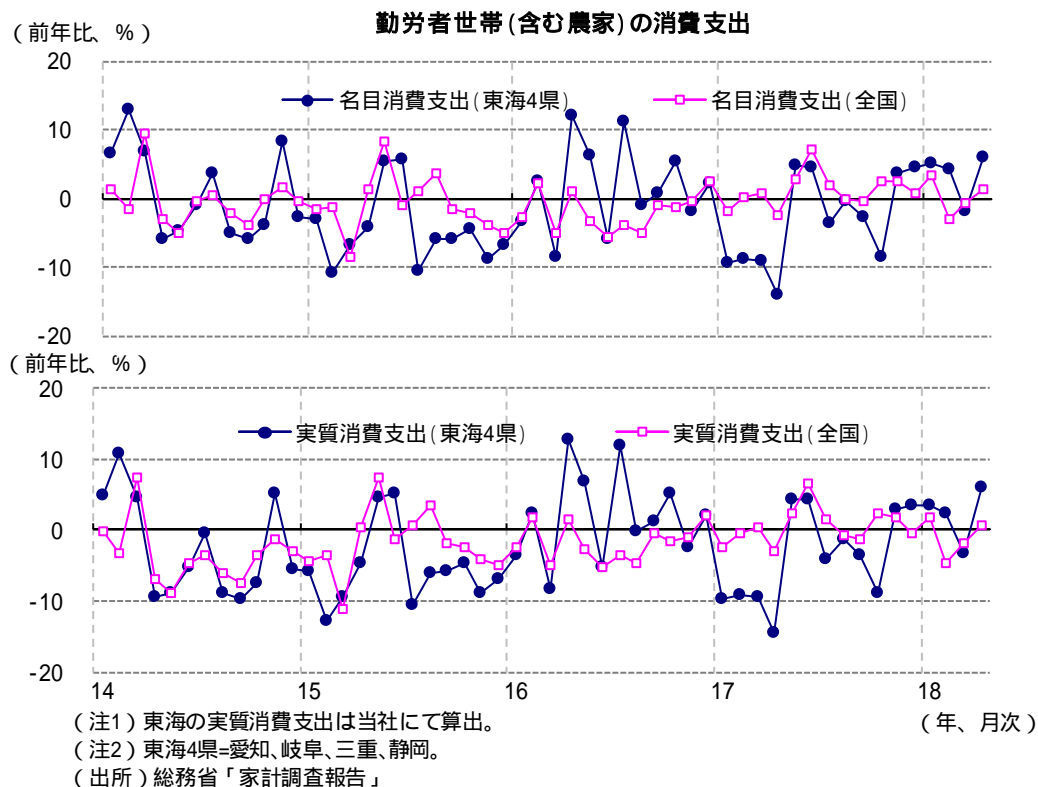


家計調査によると、4月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比+4.3%と3ヶ月連続で増加、定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)も同+1.9%と3ヶ月連続で増加した。



5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移している

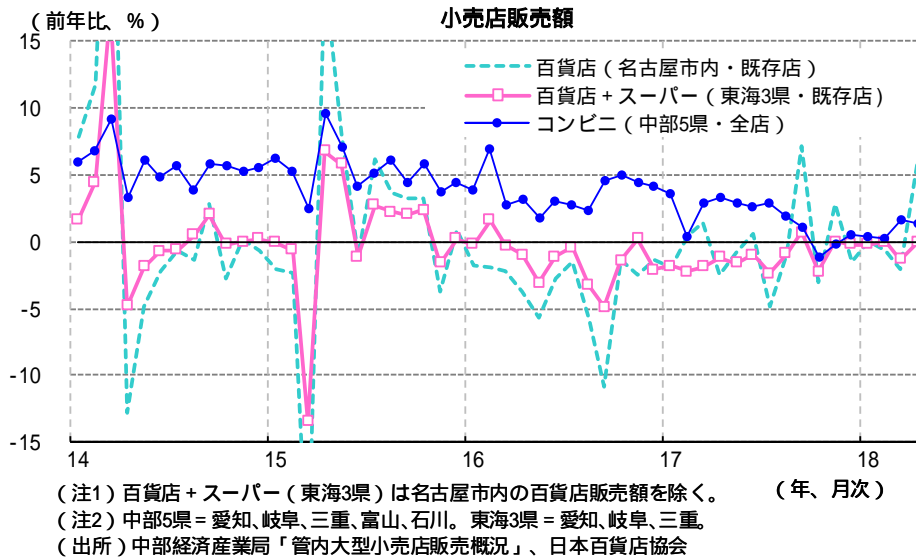
4月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の消費支出は、名目で前年比+5.9%、実質で同+5.9%と、いずれも2ヶ月ぶりに増加した。他の消費関連の指標も合わせてみると、東海の個人消費は横ばい圏で推移している。今後の個人消費は、所得環境が横ばいとなる中で、横ばい圏での推移が見込まれる。



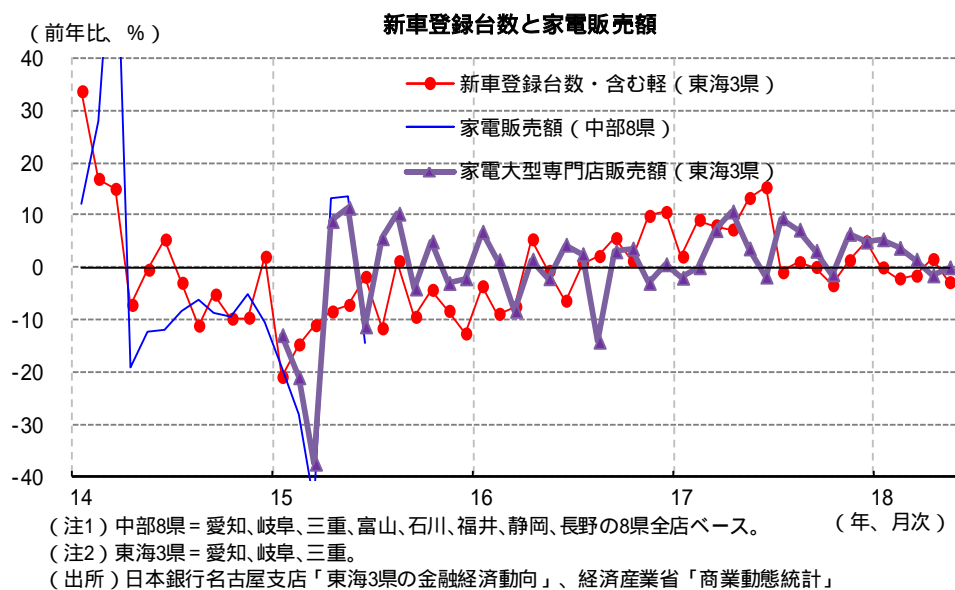
ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ) 調査部 TEL: 03-6733-1070(東京) / 052-307-1106(名古屋) E-mail: chosa-report@murc.jp

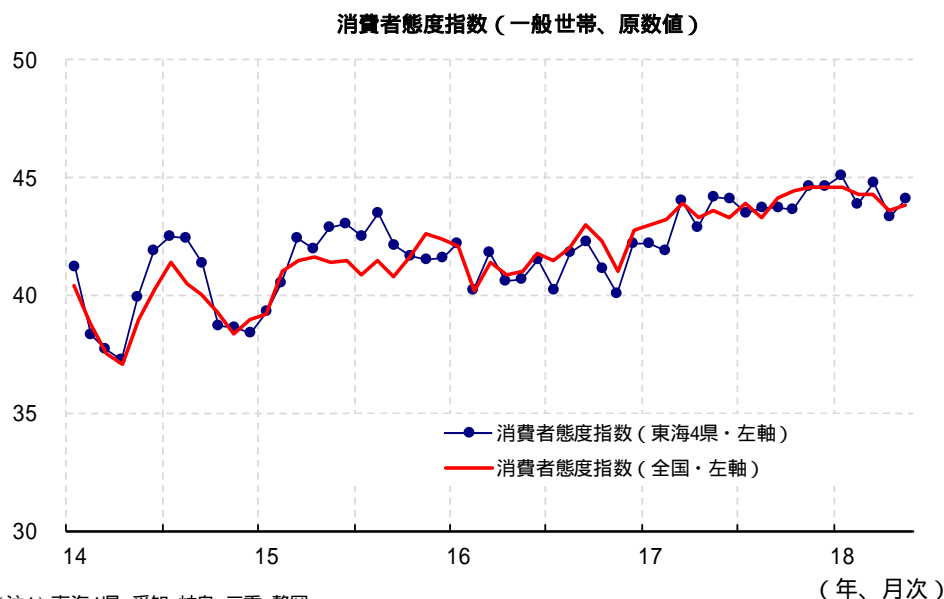
4月の東海3県の大型小売店(百貨店+スーパー、既存店)の販売額は、前年比 - 0.1%と7ヶ月連続で減少した。一方、4月の名古屋市内の百貨店販売額は、同 + 5.7%と3ヶ月ぶりに増加した。好天が続いたことや、気温が上昇したことにより、紳士服、婦人服などの衣料品が好調だった。4月の中部5県のコンビニ販売額(全店)は、同 + 1.4%と5ヶ月連続で増加した。



5月の東海3県の新車登録台数(乗用車、含む軽)は、前年比 - 2.8%と2ヶ月ぶりに減少した。内訳を見ると、普通乗用車は同 - 4.7%と2ヶ月連続で、小型乗用車は同 - 0.8%と2ヶ月ぶり、軽自動車は同 - 2.5%と2ヶ月ぶりにそれぞれ減少した。4月の東海3県の家電大型専門店販売額は同 - 1.5%と、6ヶ月ぶりに減少した。

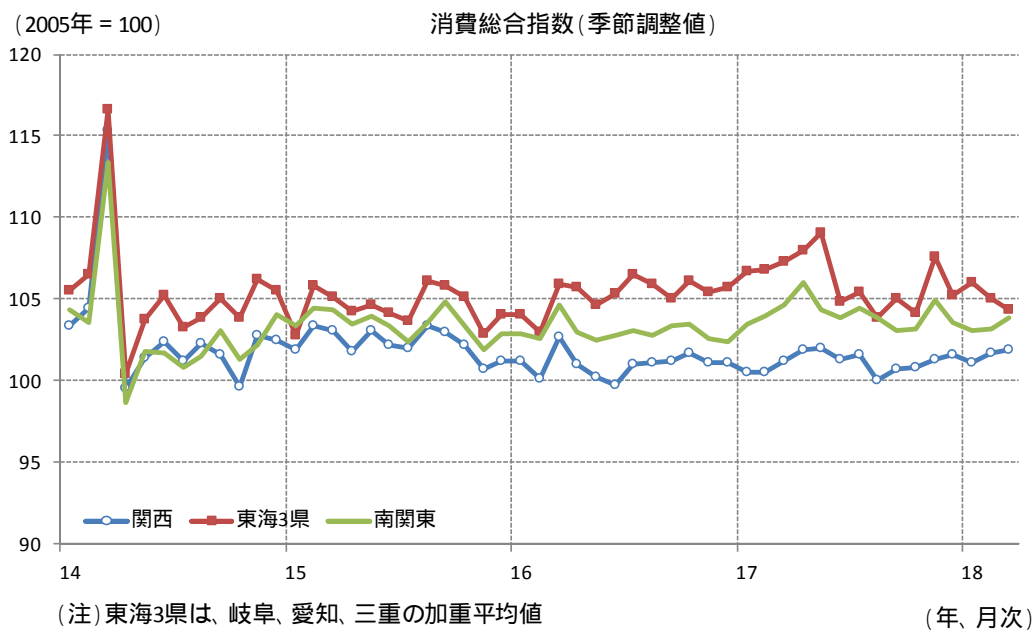


消費者マインドを表す消費者態度指数(東海、一般世帯、原数値)は、5月は前月差+0.8ポイントの44.1と2ヶ月ぶりに上昇した。東海の消費者マインドは均して見ると横ばい圏で推移している。今後については、景気が緩やかに持ち直す中、消費者マインドも緩やかに持ち直してくると見込まれる。



(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
 (注2) 消費者態度指数は一般世帯、東海4県は原数値、全国は季節調整値。
 (出所) 内閣府「消費動向調査」

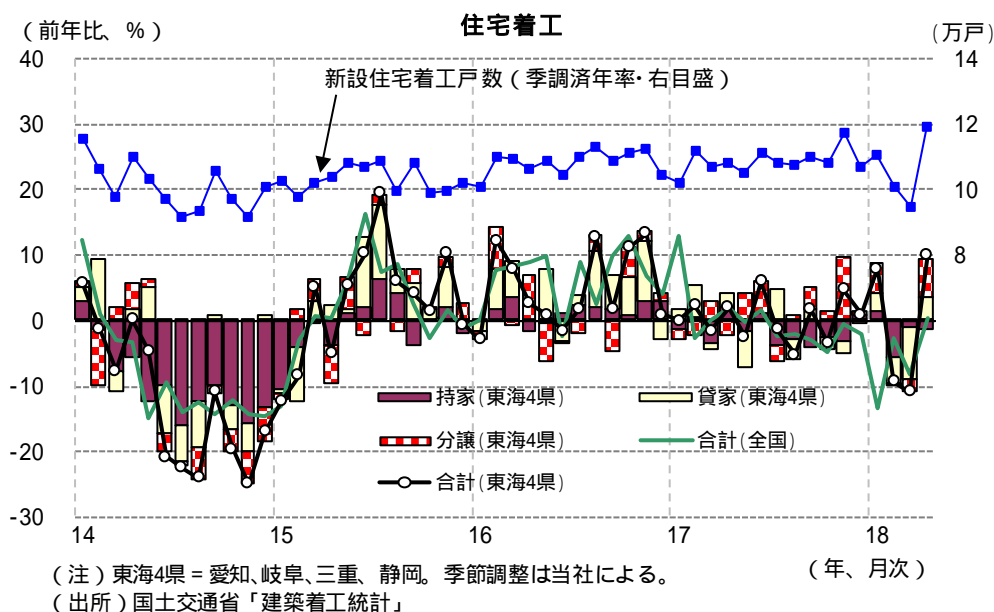
内閣府が5月に公表した地域別消費総合指数(直近は18年3月)によると、東海3県のサ - ビス消費を含む個人消費は、16年3月以降は水準を幾分上げて、持ち直しの動きが見られたが、17年6月は、交通・通信を中心に上昇した5月の反動もあって急低下し、その後はほぼ横ばいとなっている。



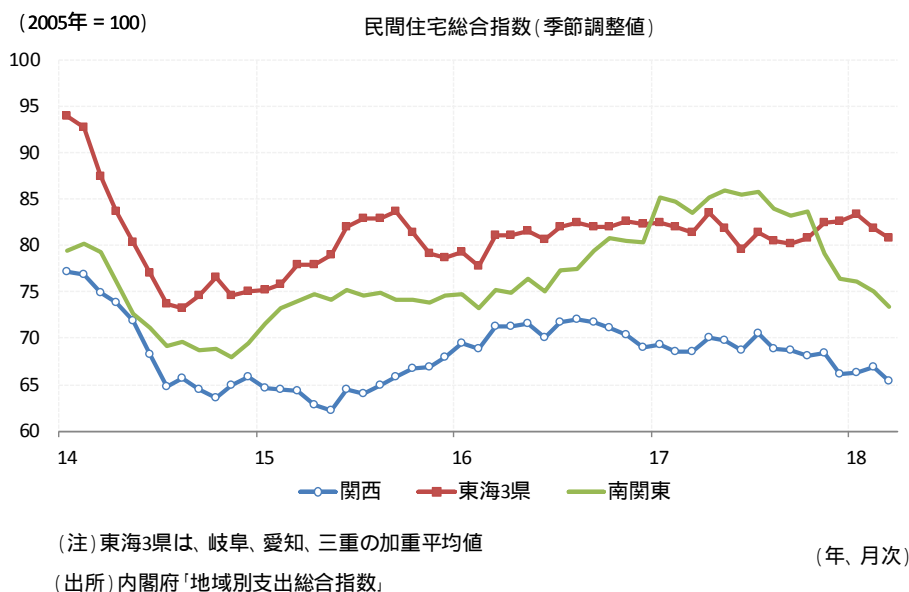
(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値
 (出所) 内閣府「地域別支出総合指数」、「消費総合指数」

6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

18年4月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で+25.6%と3ヶ月ぶりに増加した。前年比では+10.1%(9,447戸)と3ヶ月ぶりに増加した。利用関係別の寄与度は、持家は3ヶ月連続でマイナスとなったが、分譲、貸家はそれぞれ3ヶ月ぶりにプラスとなった。先行きについては、弱含みの推移が見込まれる。

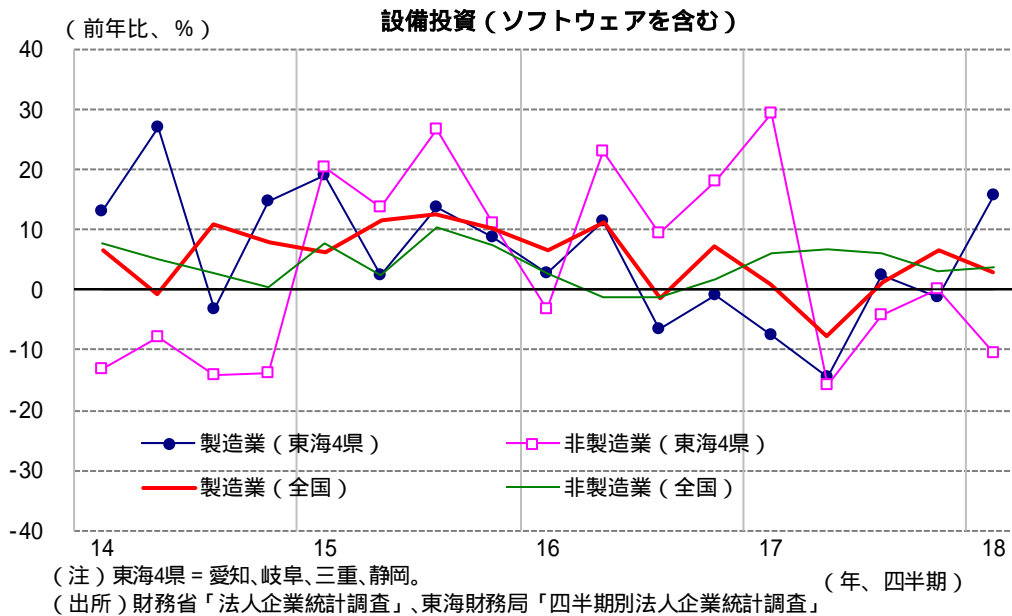


内閣府が5月に公表した地域別民間住宅総合指数(直近は18年3月)によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、16年以降、概ね横ばい圏で推移している。

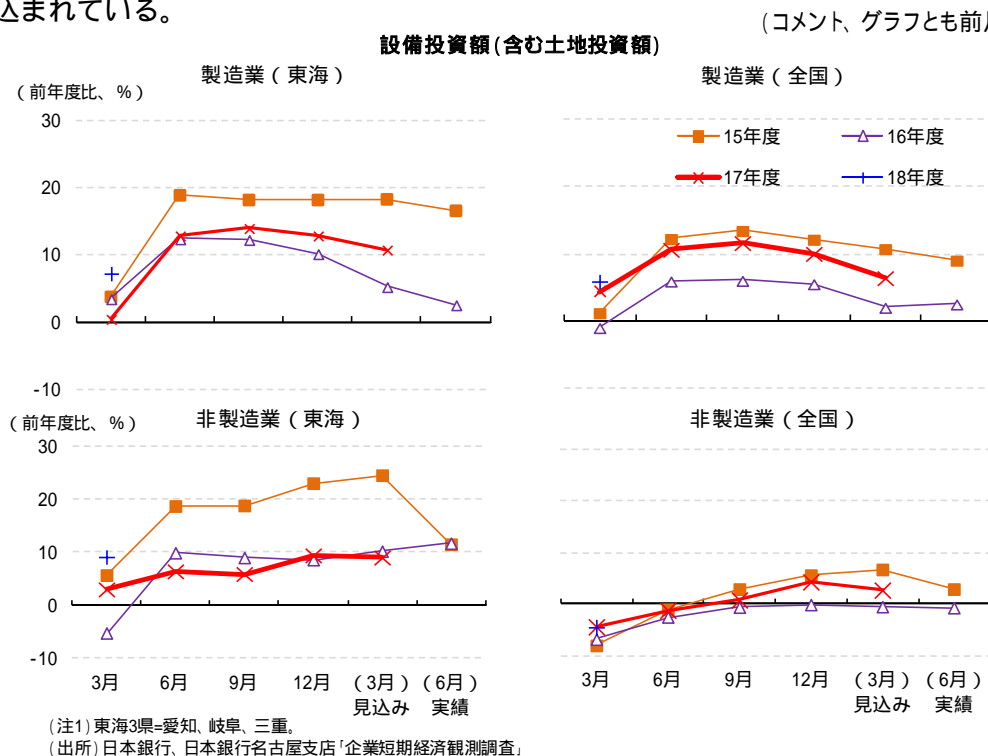


7. 設備投資 ~ 増加している

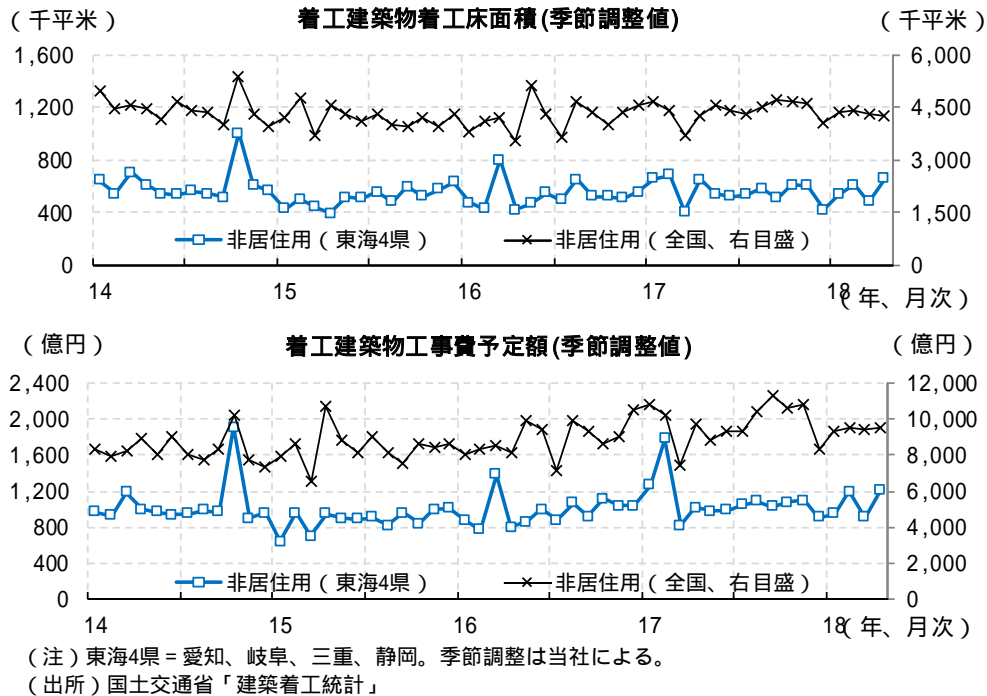
2018年1~3月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+2.3%と4四半期ぶりに増加した。非製造業は同-10.5%と4四半期連続で減少したが、製造業が同+15.8%と2四半期ぶりに増加した。



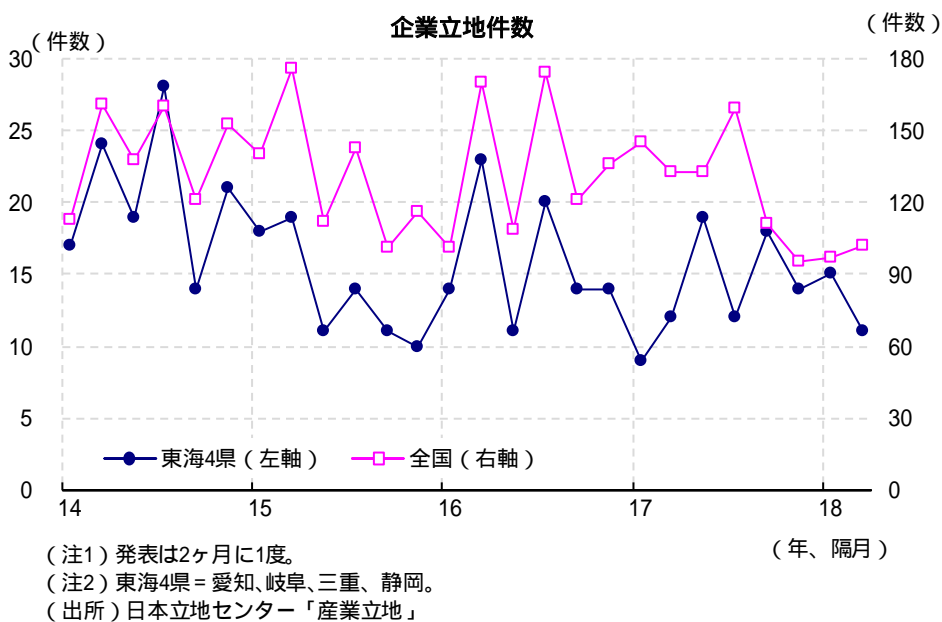
日銀短観3月調査によると、東海3県の17年度の設備投資は、全産業で前年比+9.9%、製造業で同+10.8%、非製造業で同+9.0%と全国を上回るペースでの増加を見込んでいるが、12月調査時から下方修正された。18年度については、全産業で同+8.1%、製造業で同7.3%、非製造業で同+9.1%と引き続き拡大幅は全国を上回ると見込まれている。



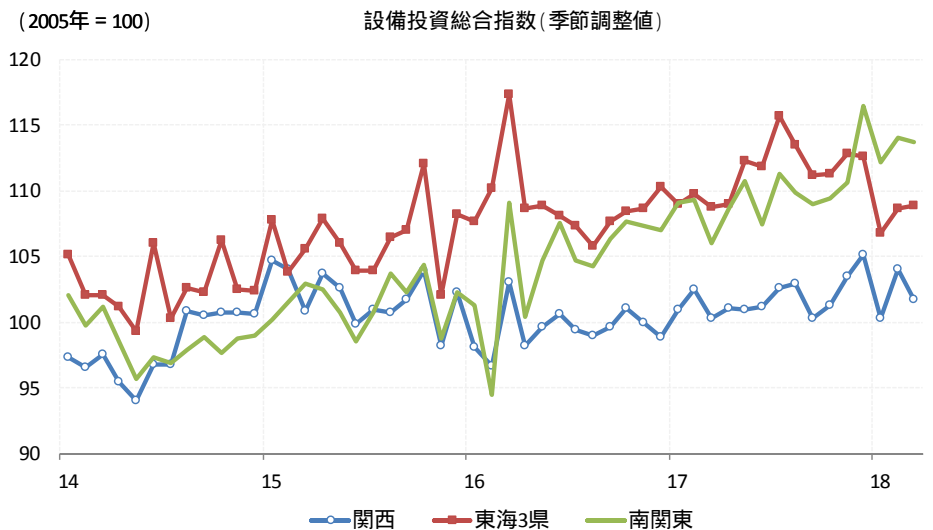
18年4月の東海4県の非居住用の着工床面積(季節調整値)は、前月比+37.9%と2ヶ月ぶりに増加した。また、着工建築物の工事費予定額(季節調整値)は、同+33.4%と2ヶ月ぶりに増加した。東海4県の非居住用建築着工は、均してみると横ばい圏で推移している。



18年2・3月の東海4県の企業立地件数は11件と、前期(2017年12・2018年1月; 15件)、前年同期(12件)のいずれも下回った。東海地区の企業立地は振幅しながらも概ね横ばい圏で推移している。



内閣府が5月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数(直近は18年3月)によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の民間企業設備投資は、2016年半ば以降、総じて増加基調で推移してきたが、足下で増加が一服している。



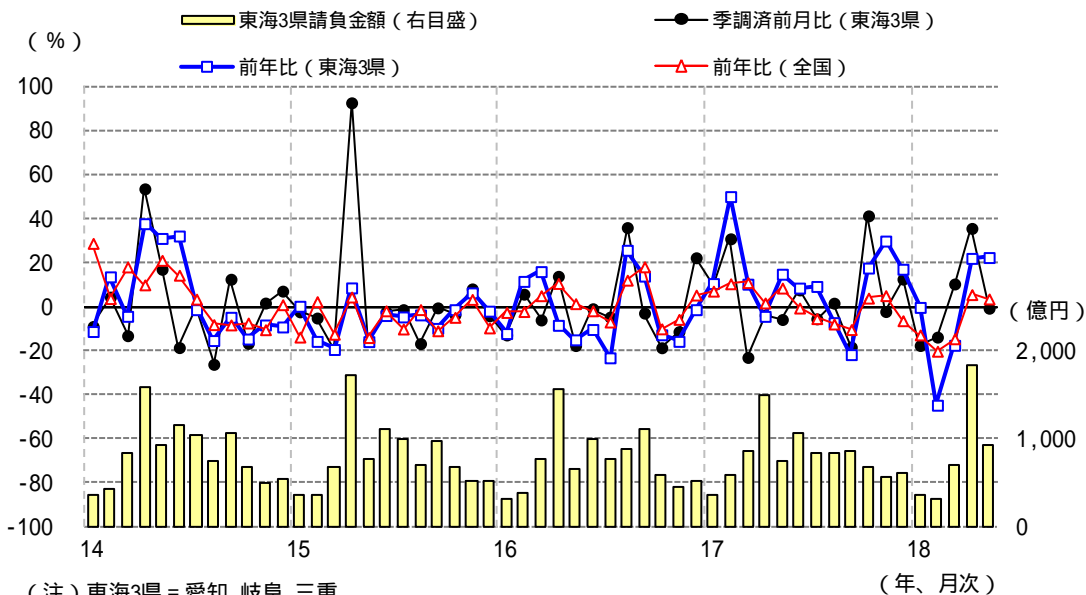
(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値
(出所) 内閣府「地域別支出総合指数」

(年、月次)

8. 公共投資 ~ 横ばい圏で推移している

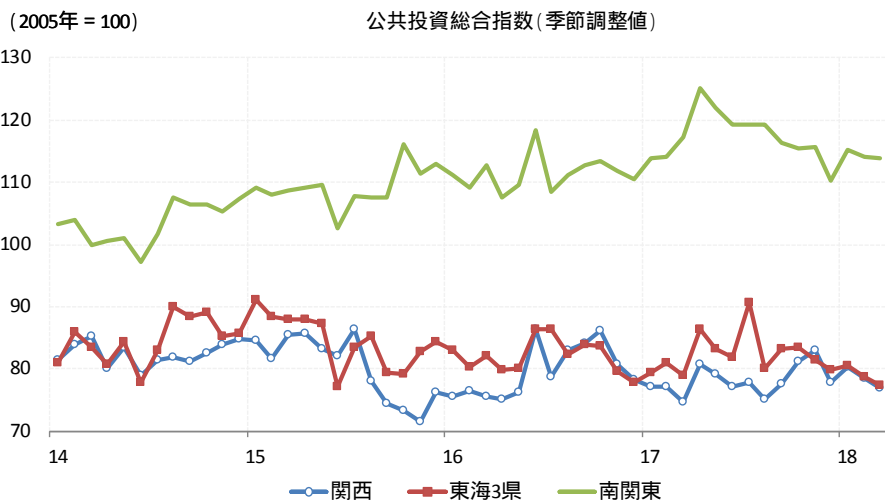
5月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+22.3%の926億円と2ヶ月連続で前年を上回った。発注者別では、国は同+26.1%、地方も同+20.2%と共に2ヶ月連続で増加した。年度累計では同+22.0%となった。日銀名古屋支店公表の5月の季調済み前月比は-0.7%と3ヶ月ぶりに減少した。先行きについては、横ばい圏での推移が見込まれる。

公共工事請負金額



(注) 東海3県 = 愛知、岐阜、三重。
 (出所) 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」、保証事業会社協会、北海道建設業信用保証(株) 東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

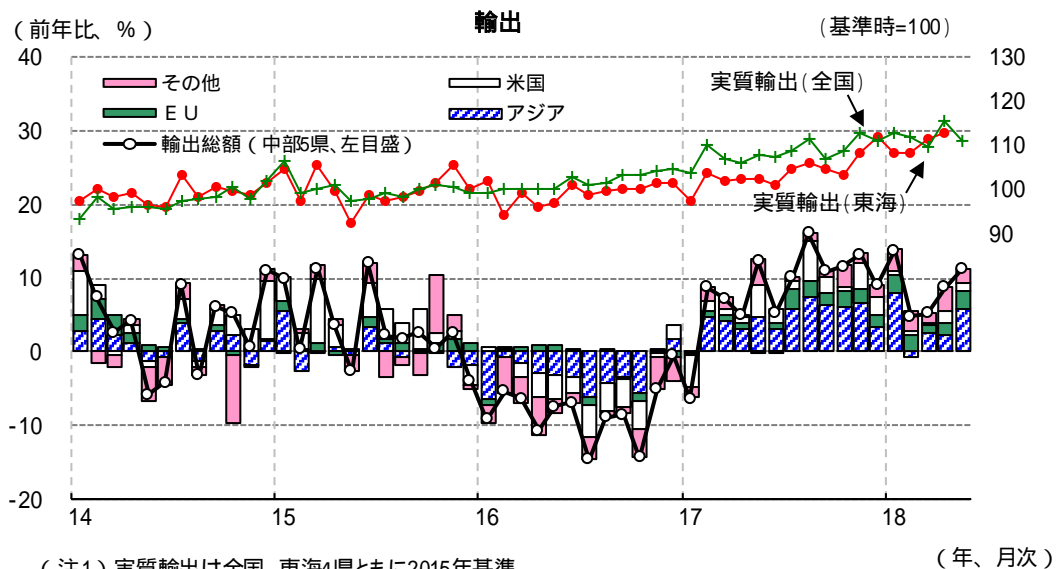
内閣府が5月に公表した地域別公共投資総合指数(直近は18年3月)によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベ-スでの公共投資は、2015年以降、均して見ると減少傾向で推移してきた。2017年度に入ってから、前半に強含んだ後、後半は弱含んでいる。



(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値
 (出所) 内閣府「地域別支出総合指数」 (年、月次)

9. 輸出入 ~ 輸出は増加基調、輸入は横ばい

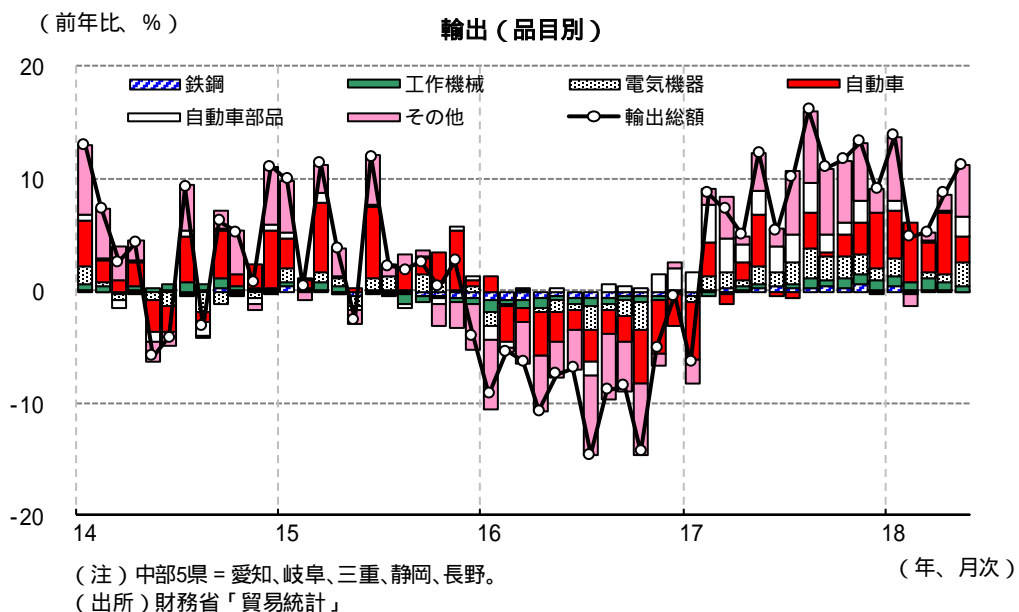
4月の実質輸出(季調済)は前月比+1.3%と2ヶ月連続で増加した。また、5月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+11.2%と16ヶ月連続で増加した。アジア向けが同+14.7%と3ヶ月連続で増加(うち中国向けは同+13.9%)したほか、米国向けは同+3.6%、EU向けが同+20.1%と引き続き増加した。東海の輸出は増加基調で推移している。先行きについては、世界経済が緩やかに回復する中、増加基調での推移が見込まれる。



(注1) 実質輸出は全国、東海4県ともに2015年基準。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」、日本銀行「実質輸出入」、
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

(年、月次)

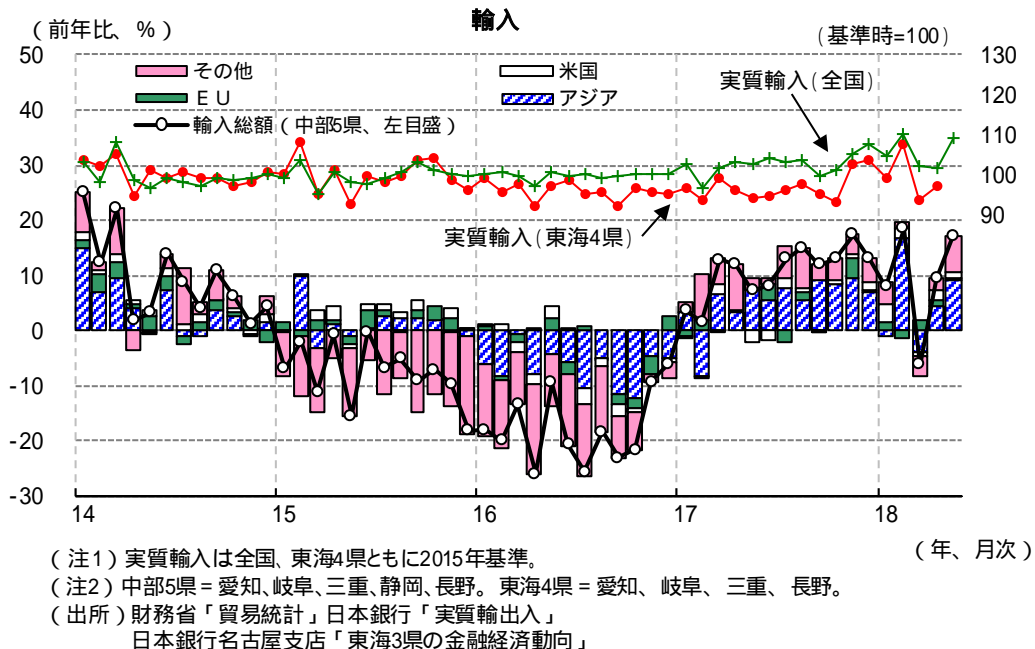
5月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、自動車(前年比+8.3%)が10ヶ月連続、自動車部品(同+12.5%)が3ヶ月連続、石油製品(同+207.6%)が9ヶ月連続で増加した。



(注) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」

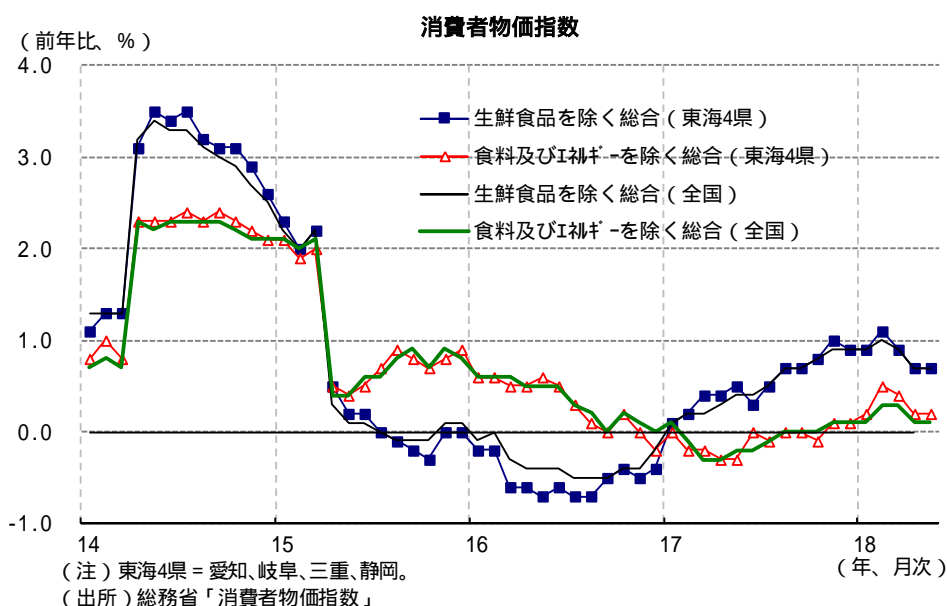
(年、月次)

4月の実質輸入(季調済)は、前月比+4.2%と2ヶ月ぶりに増加した。また、5月の名古屋税関管内の輸入額は前年比+17.1%と2ヶ月連続で増加した。品目別には、原油及び粗油、液化天然ガス、原動機などが増加した。地域別には、アジア(含む中国)、米国、EUなどが増加した。東海の輸入は均してみると横ばいとなっている。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は持ち直しが見込まれる。



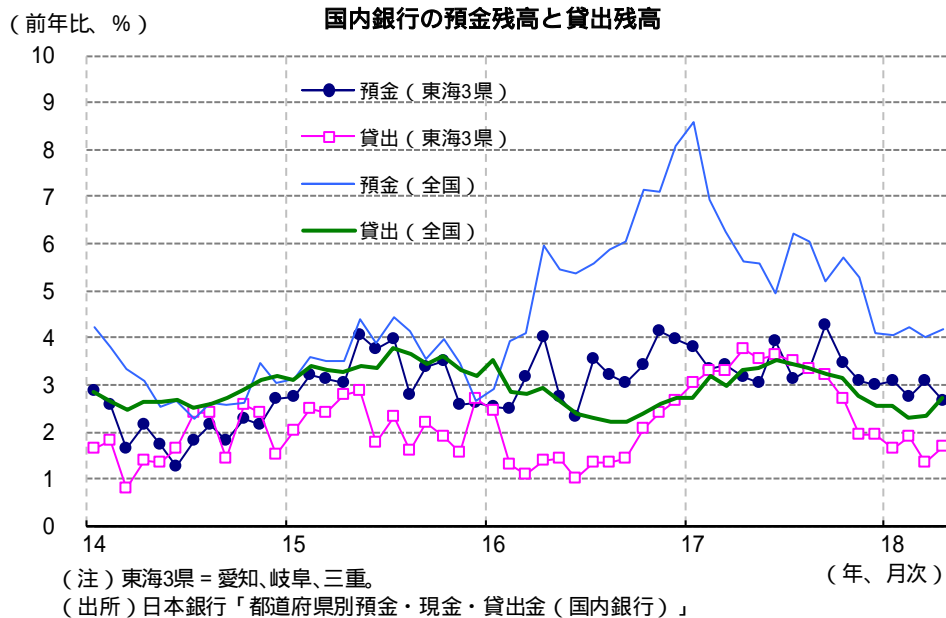
10. 物価 ~ 緩やかに上昇

5月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比+0.7%と17ヶ月連続で上昇したが、伸び幅は縮小傾向となっている。食料・エネルギーを除く総合は同+0.2%と7ヶ月連続で上昇したが、伸びは鈍化した。今後については、円高の影響などからプラス幅は緩やかに縮小していく見込みである。



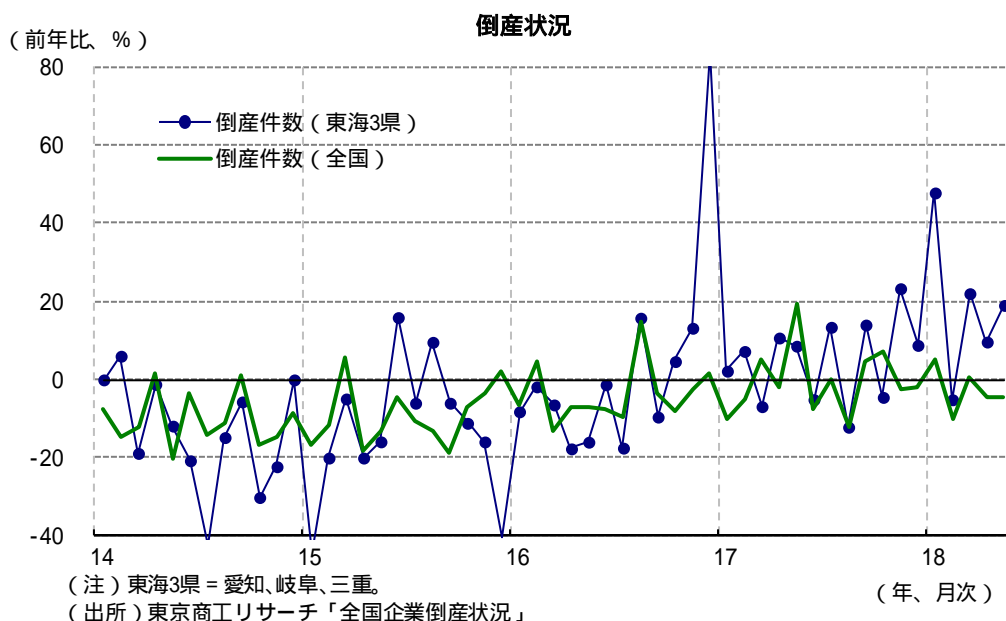
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

18年4月の東海3県の預金残高(国内銀行ベ-ス)は、前年比+2.7%と増加が続いている。個人預金、法人預金ともに増加している。貸出残高(国内銀行ベ-ス)は、資金需要が持ち直している中、同+1.7%と62ヶ月連続で増加した。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに増加

5月の東海3県の倒産件数は前年比+19.0%の75件(前年同月63件)と3ヶ月連続で増加した。県別では、三重県が5件(同8件)と3ヶ月連続で減少したが、愛知県が55件(同42件)と3ヶ月連続で、岐阜県が15件(同13件)と2ヶ月ぶりに増加した。また、5月の東海3県の負債総額は同+136.1%の114億円と2ヶ月ぶりに前年を上回った。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	→		↗	全国	→		↗	
	東海	↗		↗	輸出	東海	↗		↗
	関西	↗		↗	関西	↗		↗	
個人消費	全国	→		↗	輸入	全国	→		↗
	東海	→		→	東海	→		↗	
	関西	↗		↗	関西	→		→	
住宅投資	全国	↘		↘	生産	全国	↗		↗
	東海	→		↘	東海	↗		↗	
	関西	→		↘	関西	↗		↗	
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	↗		→
	東海	↗		↗	東海	↗		→	
	関西	↗		↗	関西	↗		→	
公共投資	全国	→		→	賃金	全国	↗		→
	東海	→		→	東海	→		→	
	関西	→		→	関西	↗		→	

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す
 3. 全国は6月4日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。
 4. 東海については、関西のレポート公表時の暫定であり、東海のレポート公表時に見直す場合がある

【各項目のヘッドライン】

項目		5月のコメント	6月のコメント
1. 景気全般	全国	回復している	回復している
	東海	回復基調	回復基調
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	増加のペースが緩やかになっている	増加のペースが緩やかになっている
	東海	増加基調	増加基調
	関西	横ばい圏で推移している	持ち直しの動きが見られる
3. 雇用	全国	改善している	改善している
	東海	改善している	改善している
	関西	緩やかに持ち直している	改善している
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しが一服	持ち直しが一服
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
6. 住宅投資	全国	緩やかに減少している	緩やかに減少している
	東海	弱含んでいる	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加している	増加している
	関西	持ち直している	持ち直している
8. 公共投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
9. 輸出入	全国	輸出は増加が一服している、 輸入は持ち直している	輸出は増加が一服している、 輸入は横ばい圏で推移している
	東海	輸出は増加基調、輸入は横ばい	輸出は増加基調、輸入は横ばい
	関西	輸出は増加基調、輸入は横ばい	輸出は増加基調、輸入は横ばい
10. 物価	全国	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇
	東海	緩やかに上昇	緩やかに上昇
	関西	緩やかに上昇	緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数は増加、負債総額は減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少

(注) 1. シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マ-クはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が 改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マ-クが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国(グラフで見る景気予報)と関西地区(グラフで見る関西経済)の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ) 調査部 TEL:03-6733-1070(東京) / 052-307-1106(名古屋) E-mail: chosa-report@murc.jp